

第13回日口漁業専門家・科学者会議

調査課生物生態研究室長 まやま ひろし 眞山 紘

日本とロシアの両国は、さけ・ます類の保存、再生産、最適利用及び管理のために協力し、このために必要な調査の実施について協力することを両国間の漁業協力協定で取り決めていて、この協力の進め方については毎年春に開催される「日口漁業合同委員会」で検討されています。また、両国の沖合域におけるサンマ、マサバ、マイワシなど浮き魚の漁業の分野の相互の関係については、地先沖合漁業協定にもとづいて設置された「日口漁業委員会」で話し合われています。これら良く似通った名称の政府間協議により付託された問題を協議するため、「サケ・マス、サンマ、マサバ、マイワシ、イカ及びその他の魚種の調査、資源状態及び資源の合理的な利用に関する日口漁業専門家・科学者会議」が毎年秋に日本とロシアで交互に開かれています。

昨年(1997年)は、11月7日から15日までの9日間、ロシア連邦ウラジオストク市において開催されました。日本側からは12名の専門家と科学者が出席し、団長は北海道水産研究所の鶴田資源管理部長が務め、ロシア側からは13名が参加し、団長は太平洋科学調査・漁業センター(チンロセンター)のアクーリン副所長が務めました。

会議は全体会議の他に、「さけ・ます」と「浮き魚」に関わる問題を討議する二つの分科会に分

かれて行われました。さけ・ます分科会は、遠洋水産研究所の石田さけ・ます研究室長が日本側のチーフとなり、水産庁漁場資源課の鈴木資源技術調査官、沿岸沖合課の田垣北洋班長、さけ・ます資源管理センター調査課の眞山生物生態研究室長、そして通訳の秀島氏の5名で構成されました。ロシア側からはチンロセンターのマルコフツェフ国際部長をチーフに、カムチャツカ、サハリンの研究所からのさけ・ます研究者と通訳を含む8名がさけ・ます分科会に参加しました。

さけ・ます分科会で話し合われた内容は、科学調査船により実施された共同調査および国内計画にもとづく調査結果、両国の研究機関やさけ・ますふ化放流施設での相互訪問の際の意見交換の結果、アジア系さけ・ます類の資源状態とその変動傾向、両国における人工再生産の概要、1998年および1999年の科学技術協力案等で、1998年に交換し合う情報および資料のリストに関する予備的な検討も行われました。

会議最終日には、「双方は、本会議が実務的雰囲気の中で行われ、また、日口両国の漁業専門家・科学者の漁業調査の分野における科学技術協力をさらに発展させるものであると指摘した。」という記述で締めくくられた議事録を作成し終了しました。

第5回北太平洋溯河性魚類委員会年次会議

調査課生物資源研究室長 かえりやま まさひで 帰山 雅秀

第5回北太平洋溯河性魚類委員会(NPAFC)年次会議が、1997年10月27-31日、カナダB.C.州のビクトリアにおいて開催されました。日本からは、石田審議官を代表とし7名が出席しております。10月29日と31日に今村議長(日本)のもとに本会議が開催されましたが、主な決議事項は次のとおりです：

- (i) NPAFC と PICES との覚え書き(MOU)については、テーブルの上に置いたままとする。
- (ii) 現事務局長の1年任期延長の了承と次期事

務局次長に大森浩子嬢の任命。

(ii) 次期年次会議をほぼ同じ時期にモスクワで開催する。

(iv) 科学研究統計小委員会(CSRS)、取締役小委員会(ENFO)および財政運営小委員会(F&A)にそれぞれ付託した議題の検討結果を承認する。

CSRS が、Loh-Lee Low 議長(米国)のもと10月27-30日に開催されました。主な科学的論議は次のとおりです。